

大吉買山地記

建初元年(76)
(後漢時代)

雄大な摩崖刻石②

木雞

木雞室

伊藤 滋

図版② 全体の整拓本



浙江省紹興の烏石村にある。上海の友人に依頼して1987年に撮影してもらった写真では、竹林の先にある小さい岩山に刻されているのが確認される(図③)。刻されてから二千年近い年月を自然の風雨にさらされながらも、文字

は破損することなく現代に伝えられてきた。その後、何時の頃かこの摩崖を保護するために文字部分を覆うように建物造られた。摩崖刻石の内容は、土地の購入をしめす証文(地券)である。そのやや上に「大吉」の二字が本

文と同じ書風で刻されている。書体は一見すると古隸のようであるが、横画には顕著な波磔が見られないが、左右に払う筆遣いには大きな抑揚が見られる。大きい文字は、二十センチほどの大きさである。文字がやや大きいことと石質の粗い趣によるのであるとか、伸びやかで雄大な書風を示している。碑文の右横に清末の金石家・呉榮光らの観記が刻されている。更にその右横に隸書体で「退思」の二字が刻されている。この二字について、清末の金石



図版③ 「大吉買山地記摩崖」遠望
一九八七年撮影



図版④ 左側が摩崖刻石本文
右側が呉榮光等の観記

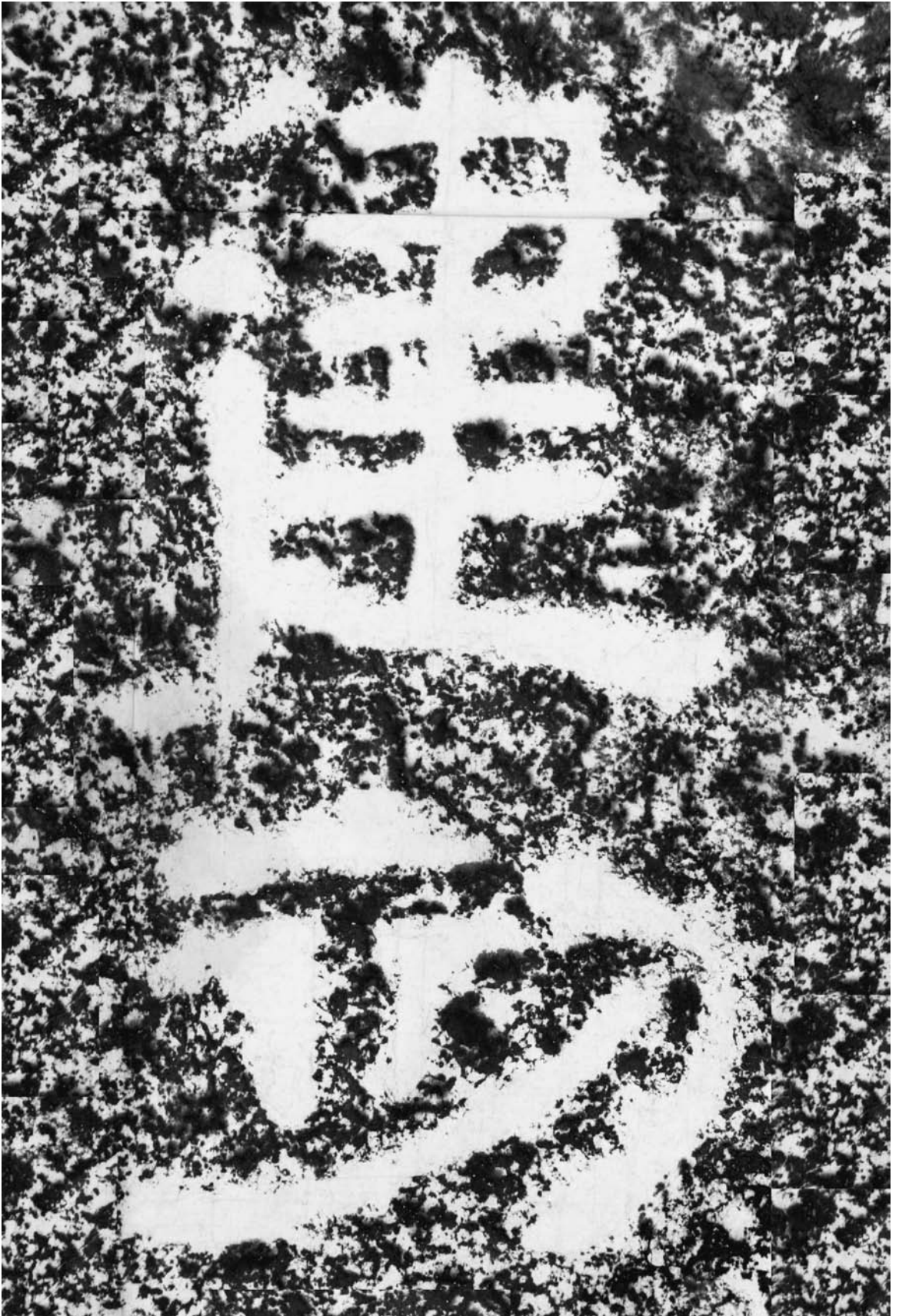
家・杜春生は唐時代以前の刻であろうと記している。僅か二十二字の小品であるが、大変親しみやすい摩崖刻石である。

前回の予告が誤りでした。次回が、『楊淮表紀』です。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス

mokei@galaxy.ocn.ne.jp

図版① 「建初」の二字（やや縮小）



書道芸術院

平成の群像 (2011)

「瀧」



第62回毎日書道展出品作



川島舟錦

「可能性を信じて」

こどもや若者に「書写書道」の醍醐味を伝えられないもどかしさを感じている。それは、風や光を浴び、木々や草花に心癒されながら登山するのと似ている。心地よい達成感や充足感を味わった人だけが、また次の山を目指す。登る（書く）過程において、面白さや魅力を感じられたかどうかだ。

こども達には、「難しいこと」「わからないこと」が「できるようになる」よろこびを体感してほしい。ひとつふたつの山を乗り越え「面白い」と感じたら必ずまた、次の山を目指すもの。努力し、耐え抜いた後にやってくる、内から湧き出るような感動を何度も味わってほしいと思う。

しかし、ややもすると、指導に手を貸しすぎて「考える力」を奪っていないか、危惧することがある。自分自身の力不足から、適切な助言ができていないことに、もどかしさを感じることもある。

牧泰濤先生ところの「大分県書道チャンピオン大会」を二回視察、すっかり魅せられたスタッフ十数人が「高知県小中学生選抜書展」を立ち上げた。会場で、書道用具を準備し、当日渡された課題を練習、その中からとっておきの一枚を選んで提出するまでの一時間を、全てひとりで体験する大会だ。

手本を見て、感じて、考えて、書くという過程の中で、集中力・思考力・判断力・感性・創造力を育んでほしいと願っている。失敗してもいい。いや、失敗することがいい。小中学生が、緊張しながら一生懸命取り組む姿や真剣な眼差しに大人は感激し、感じ入る。無限大の可能性を秘めながら確実に成長する姿を想像できるからだろう。今年は、第四回目。「高知県小中学生選抜書展」は、私達スタッフの心地よい生き甲斐にもなっている。

書のひろば

理事長 辻元大雲

第63回全国学生書道展表彰式



展示作品

書道芸術院秋季展公募審査

本年度の秋季展審査会員候補公募作品の審査が、8月18日(木)浅草橋文芸会館にて恩地会長、辻元理事長など7名の選考委員により行われた。

応募総数35点、196人から左記のとおり秋季菊花賞10名、入選40名が決定した。秋季菊花賞は本展の白雪紅梅賞と同格の扱いとなり、選考もかなり厳しいものとなったのは言うまでもない。入賞、入選された方々に心よりお祝い申しあげるとともに、惜しくも選外となった方々には再度挑戦を期待したい。

*秋季菊花賞(10名)

(漢) 朝倉希代子 川嶋里美

橋 由紀 森田藤谷

(か) 田村玲子

(現) 天野白扇 乙倉翠芳 山田翠香

(前) 佐々木青霞 鰐 匡子

*入選(40名)

(漢) 今関梨霞 掛水美翠 衣田琴草

小林椿寿 佐藤桂香 篠原楊流

高橋恵泉 田口鈴水 武部春浦

谷口青龍 寺内宏山 土井琴翠

本田江燕 目良珠山 山田琴敷

吉永踏花

(か) 伊藤則子 橋本紅霞 山田静枝

(現) 石下珠光 小野寺幸源 金濱珀

燐 蔵村登美 佐々木一峰 高

橋侑豊 田中梢翠 菱沼範子

水野大祐 三宅佳峰 吉田眞理

米田智子

(篆) 大沼樵峰

(前) 荒川空華 岩上郁子 岩沢芳仙

大友紅蓉 神沢政母 塚本真由

美 野口加奈 松倉侑子

*審査会員選抜 財団役員含め 100点

審査会員候補公募入賞入選 50点

会期 10月4日(火)〜9日(日)

会場 東京セントラル美術館

※表彰式・研究会(会場内)

午後1時〜3時

※レセプション 午後4時より

*推薦作家展(5名)

(漢) 崎井恵風 (か) 天海矩子

(現) 尾形澄神 (篆) 小林古徑

(前) 大石仙岳

会期 10月4日(火)〜9日(日)

会場 アートサロン毎日

第14回国際交流ウィーン書道展

本院参与会員谷脇梅翠先生がオース

トリア日本人学校校長として赴任され

て以来の国際的な交流が継続して行わ

れ、書を通じた交流は28年余になると

いう。1998年にウィーン日本大使館日本

広報センターで「第1回書道芸術院高

知選抜ウィーン展」として誕生して以

来、本年度で14回を迎える。単に展示で

はなく、現地の方々を対象にしたワー

クショップを毎回実施、多くの書道愛

好者も誕生している。

本年は10月3日〜7日まで同会場に

て開催される予定。

主な出品者(賛助・高知関係)

恩地春洋 小伏竹村 辻元大雲

小伏石雲 下谷洋子 砂本杏花

小伏小扇 小林琴水 小浜大明

種谷萬城 牧 泰濤 飯田春香

谷脇梅翠 大野祥雲 依岡紫峰

ほか計44点

書道芸術院65回展

記念事業実行委員会開催

7月29日 学生展授賞式後来年に迫った65回展記念事業実行委員会が開催され、記念事業の進捗状況などが検討された。

・役員作品巡回展 各地の開催日程などは確定

・65年史編集企画

・物故者慰霊祭、遺作展示

・記念展(記念賞設定)企画

・全国学生書道展併催計画(64回展より学生展は本展と同時開催となる。)

単位認定富山講習会開催

恒例の単位認定講習会が本年は北陸支局担当で、富山県高岡市にて開催された。

・日時 7月30日(土)・31日(日)

・会場 高岡市文化ホール

ホテルニューオータニ高岡

・参加者 受講生 104名

講師・役員 20名



受賞されたみなさん

15年連続全国優勝の群馬県立渋川女子高等学校校長の謝辞もいただき、厳粛な中、心温まる表彰式であった。

去る7月29日(金)午後1時より、浜松町東京都産業貿易センターにて、第63回全国学生書道展表彰式が全国の入賞者指導者など参加をいただき盛大に挙行された。会場は広々とした会館2階で、毎日書道会糸賀靖夫専務理事、恩地春洋本会長、財団理事・監事列席のもと、麻生峰扇表彰部長の指揮により順調に進行した。

現代詩文書 (六)

佐藤 無極

当初は道標となるべきものを探っていたいとの思いから始まりましたが、書の世界は広く、奥深く、多岐にわたりますが、いかに自分が生きた証を、どう表現することが出来るにかかっているのではないかと思います。その為には、バランスの取れた考え方、見方、生き方、視野を広くし、感性を磨き、さらなる習練を少しでも表わすことが出来るよう研鑽していくことではないかと思っています。

掲載作品は2010年書道芸術院秋季展出品作です。多字数四行書で、前二行、後二行に分割し、それぞれの余白の白をいかに融合させる考慮しました、渴筆の線種の多様性を筆触を変えながらいかに透明感を生むことが出来るかを考え書いたものです。観ていただいた方々に一行でも、一字でも、一本の線でも、心に留めていただくことができたならば幸いです。これから全体は基より、

一行、一字、一線に拘り、観ていただいている方々にそれらが届くような作品を発表していきたいものだと思います。

最後となりましたがこの度の震災にあたりまして、諸先生方より多大なご心配を賜りましたこと、この紙面をお借りいたしましたして、心より感謝申し上げます。

当地方の皆さまには甚大な被害に合われた方々が多くおられることと思います。本当に辛く苦しいことと存じます。

私の家は修理は要しますが、型は残り生活は出来ておりますが、本震、余震と続く中、片付に追われているのにもかかわらず、瓦礫の山の様な所より種々、資料を取出し、この稿を書いていることを容認してくれている家族にも心より感謝しております。

長い間拙い稿にお付合をいただきましてことに心より感謝申し上げます。

21世紀の書

—私の主張—

かな (六)

大辻 多希子

創作とは何か。他にないものを創ること。技術と芸術的感覚で自分の世界を創り出す。種々なものを

大辻多希子書

第62回毎日書道展出品

を良く見て、自分の美意識を高め、誠実に過ごしていれば持っているものは出てくる。と下谷先生の教えです。

また、自分を白紙に戻し襟を正し、自分を見つめ直して、書の中に夢を持ち、総合的に纏めて書に向う。目標を持って生き、実生活と違う優雅さも大切であると、話されました。

写真作品、第62回毎日書道展出品の作品、構成には気をつけているつもりですが、中央部分に大きな字を配置したのは悔やまれます。

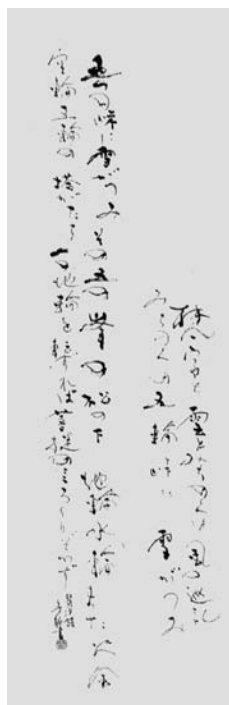
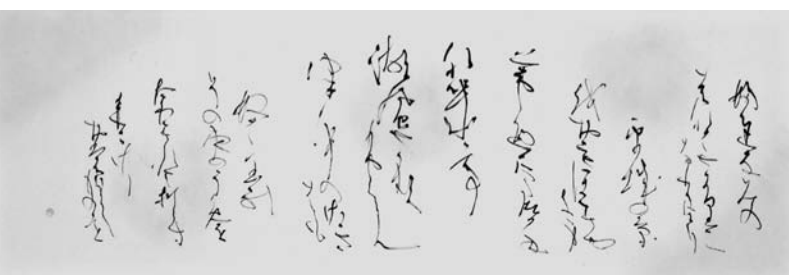
ひと文字ずつに命を吹き込みながら見る人を魅了する作品が出来たことを夢見て、過して来ました。

時々、かなの奥深さにおしつぶされそうになり、逃げ出したくなることもあります。世阿弥の風姿花伝書を思い起こし奮起しています。

「初心を忘るゝは、後心をも忘るゝにてあらずや」、その他「時々の初心」「老後の初心」などは習道者にとって戒めと受けとめられる一節です。

書の美を追求し実践するために、書以外の領域にも目を向け、心を豊かにしたいと考えています。

六ヶ月間原稿を書かせていただき、過去を振り返る機会となりました。未来も見据え、新たな目標も見えて参りました。貴重な場をいただきましたこと感謝申し上げます。



佐藤無極書
174×57cm



上田 琴秀
（大阪）

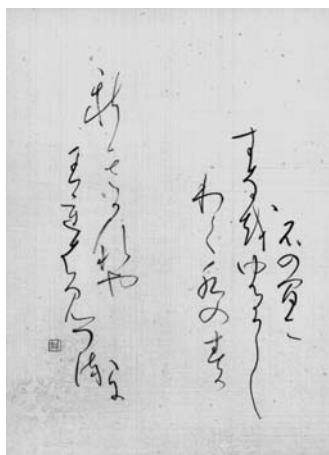


「花」

可憐でやさしいコスモスのような花をイメージし、線質の強弱を意識しながら表現しました。まだまだ表現することに生みだめな性格が出てしまい枠にとられがちです。もっと自由奔放で遊びのある作品づくりがこれからの課題です。先生方の作品に刺激を受けながら一歩ずつ自分らしさを失わず歩んでいけたらと思います。
（琴秀）



岡部 照芳
（埼玉）



「石の間に砂をゆるがし湧く水の清しきかなや我は見つるに」
斎藤茂吉の歌

今は亡き下谷東雲先生に基礎を学び、その後は現在の師下谷洋子先生に御指導いただいています。これからは古典の研鑽と共に余白の美や構成などに留意した独自の表現を目指したいと思います。
（照芳）



新宮 文葉
（京都）



「人魚の海」

関西書道協会の競書雑誌「書心」の課題「人魚の海」を書きました。半紙は紙面が小さい分全体が把握し易く大胆な構図をいろいろ試したり、短い言葉からのイメージも表現し易く楽しいです。今後は苦手の臨書にも力を入れて幅広い書作が出来ればと思います。
（文葉）



松村 秀扇
（千葉）



「感謝」

良き師・諸先輩、感動を分かち合う仲間達に支えられて今日まで来ました。書の楽しみを与えて下さったすべての方々に感謝の念で一杯です。部屋に飾ってある故種谷扇舟先生の色紙の側で先生はどんな気持ちでこれを書かれたのだろうと思ひ巡らしながら私も鶏毛筆で書いてみました。
（秀扇）



特集 第63回毎日書道展

会員賞



佐藤 菜扇
(漢字部)

この度の第63回毎日書道展にて栄えある会員賞を賜り誠にありがとうございました。

佐原高等学校で種谷萬城先生との出会いから30年の歳月が流れました。また、白扇書道会、書道芸術院の先生方にご指導を賜り、さらに見守って頂きながら歩み続けることが出来ました。恵まれた環境の中で勉強して来られたことに感謝しております。

3月11日の大震災。心が沈み何も手につかない状態が続きました。しかし、作品を書いている時は何もかも忘れる事が出来ました。

6月29日、思いがけない一報に驚き

と共に只々感謝の気持ちで一杯になりました。

これからは今まで以上に努力を重ね自分に出来る事は何かを考えながら前に進んでいきたいと思えます。



漢字部 佐藤 菜扇

会員賞



倉林 紅瑤
(前衛書部)

私は山本聿水先生に前衛の世界に導いていただき、美しい線と緊張感に満ちた構成を追及することを厳しく教えていただきました。

書は「自己表現」と言われていますが、特に前衛書は創作性の高い分野で



前衛書部 倉林 紅瑤

す。納得する作品を生み出すために苦労します。今回の作品は線質については長鋒の筆を使って深みのある鋭い線を追及した結果、求めているものがある程度表現できたと思います。構成、余白の取り方等については数年前から毎日賞を受賞した若い頃のダイナミックスで豪快な書風に戻る試みによって変化を引き出そうと考えてきました。まだまだ勉強の余地があります。今後とも研鑽を続けて行こうと考えています。

この度の会員賞受賞は書道芸術院・白玄会のご指導、ご支援の賜です。心より感謝申し上げます。

副賞



第63回毎日書道展総評

辻元大雲

第63回毎日書道展は昨年と同じく国立新美術館を中心に展開し、2月の運営委員会が主要人事、運営大綱が決定して具体的に始動した。会員諸氏が作品制作に本格的に力を注ぎ始めた3月11日、午後2時46分、かつて経験したことのない大震災に東北地方はもとより日本全土が襲われた。壊滅的な被害を被った岩手、宮城、福島を中心に犠牲者、行方不明者2万人余、根こそぎ倒壊流出した街並み、更に福島原子力発電所の大爆発とその後の絶望的な状況は、今に至るも改善の兆しも不明なままである。

毎日書道展そのものの開催も大打撃を受けるのではと心配されながら、公募会友出品数は昨年比900点余の減少、本院に至っては30点の減少であった。毎日書道展のみならず全書壇の中で、最も震災の影響を被った本院の会員、特に東北総局、南関東総局の皆様の出品へのためまね意欲、努力を感じないわけにはいかない。生死を分けた大被害を乗り越え、毎日書道展へと立ち向かった方々の不屈の精神を有難く心に銘じたいと思う。

5月末の鑑別、6月末の審査は例年

通り進行し、会員賞選考、文部科学大臣賞選考まで順調に行われた。統計資料は下表をご参照いただきたい。特筆すべきは会員賞に2名、4年ぶりの漢字部佐藤菜扇さん、2年ぶりの前衛書部倉林紅瑤さんの受賞である。堂々たる入賞で大いに慶賀したい。7月16日には会員賞を代表して佐藤さんが席上揮毫を披露、大きな喝采を浴びた。毎日賞以下の受賞はほぼ例年通りで、大震災の影響を受けながらも大いに健闘したといえる。

7月12日にはホテルプリンスタワー東京の素晴らしい会場で表彰式が行われ、約2000名余の参加による祝賀会も盛会であった。展覧会表彰式に先立ち平成22年度毎日書道顕彰の授与が行われ、本院下谷洋子常務理事が芸術部門で受賞され栄誉を受けられた。

午前中はフランス国立ギメ東洋美術館ジャック・ジュス館長の講演も行われた。来年3月にギメ美術館で開催予定の「現代日本の書」展開催に向け契約取り交わしのため来日された。ほかに北京故宫博物院副館長も来賓としてご出席された。

夕刻5時過ぎより芝パークホテルにて、本院主催の毎日書道展出品者懇親会が約200名の参加をいただき盛会。下谷洋子さんの毎日書道顕彰、会員賞はじめ各賞の受賞者紹介など、晴れやかで心温まる祝宴であった。

恒例となった特別展示は「宇野雪村の美」。前衛書のバイオニアとして、

上田桑鳩先生の跡を継ぎ、戦後の書壇、毎日書道展の礎を築かれた先生の作品を中心に、北京故宫博物院からの里帰り古名拓、五島美術館収蔵の文房四宝コレクションなど、充実した展示で観る者を惹きつけた。同展図録は内容充実、必見の書である。是非座右に一冊供えられるようお勧めしたい。一冊三〇〇〇円、東京展会場でもしか展覧しないので、地方の方々はせめて図録での鑑賞をお勧めしたい。毎日書道会へ直接注文すれば送ってもらえる。

今回展での院関係主要役員は、審査部長を辻元大雲担当、中国展実行委員長を小竹石雲常務理事が担当する。小竹氏は本年度の第26回中国へ毎日書道研修団の副団長も務められる。その他会員賞選考委員、当番審査員などは既報のとおり。

◇関西展	8月3日(火)～8月7日(木)
◇四国展	8月10日(火)～8月14日(木)
◇北陸展	8月21日(火)～8月25日(木)
◇東海展	第1会場 8月23日(火)～8月28日(日)
	第2会場
◇中国展	8月23日(火)～8月28日(日)

◇東北仙台展	9月16日(金)～9月21日(水)
	せんだいメディアテーク
◇九州展	9月21日(水)～9月25日(日)
	福岡市美術館
◇北海道展	9月21日(水)～9月25日(日)
	札幌市民ギャラリー
役員展	9月21日(水)～9月25日(日)
	大丸藤井セントラルスカイホール
◇東北山形展	10月12日(火)～10月16日(木)
	山形美術館

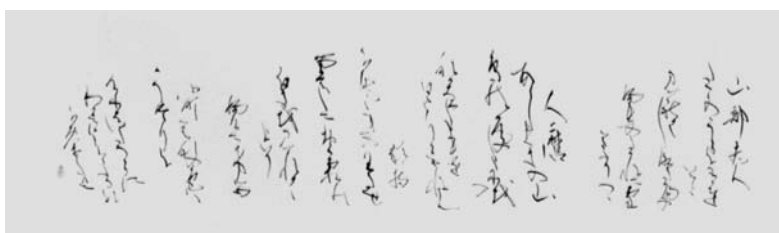
第63回毎日書道展公募出品点数（会友含む）および入賞数

項	毎日展総出品点数				芸術院出品点数				芸術院入選点数				毎日賞		秀作賞		佳作賞		U23毎日		U23新鋭		U23奨励	
	総数	会友	一般	U23	総数	会友	一般	U23	総数	会友	一般	U23	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院	総数	芸術院
漢字部	12,867	2,378	9,854	635	410	69	323	18	220	69	141	10	87	3	199	5	399	12	5		6		25	1
かな部	5,367	1,026	4,114	227	278	49	219	10	182	49	127	6	36	2	83	6	166	8	2		2	1	9	1
近代詩文書部	7,039	1,444	5,000	595	520	130	333	57	301	130	148	23	48	4	109	7	218	16	4		6		24	2
大字書部	2,555	520	1,786	249	212	70	128	14	140	70	64	6	17	2	39	5	79	6	2		3		10	1
篆刻部	619	91	487	41											10		19						2	
刻字部	883	93	764	26	118	27	88	3	71	27	43	1	6	1	14	2	27	4						
前衛書部	1,662	281	1,310	71	468	89	340	39	276	89	169	18	11	3	26	7	52	14			1	1	3	2
合計	30,992	5,833	23,315	1,844	2,006	434	1,431	141	1,190	434	692	64	209	15	480	32	960	60	13	0	18	2	73	7

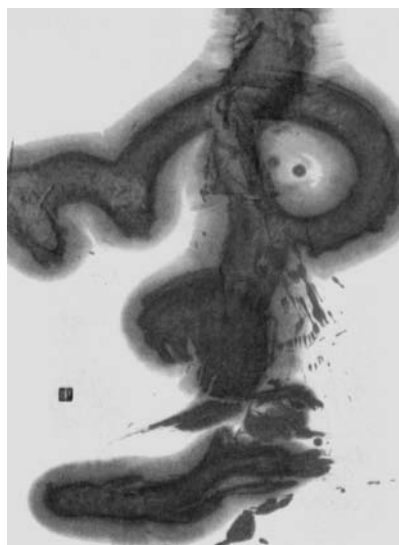
毎日賞



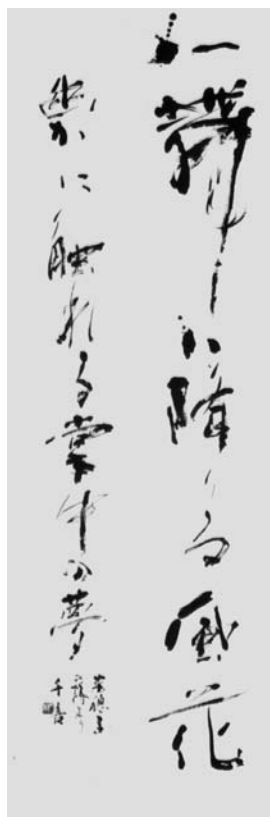
漢字部Ⅱ類
紺野遊山



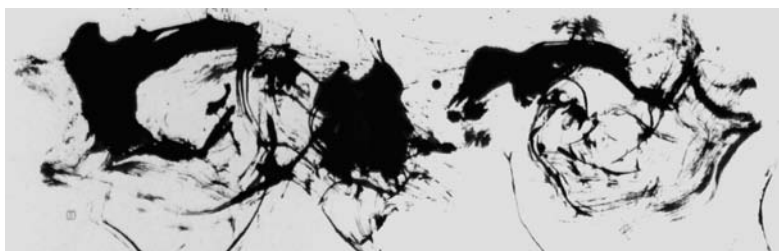
かな部Ⅰ類
仙場美枝子



大字書部
木佐貫 鮮水



近代詩文書部
菊池千喜



前衛書部
塚本真由美

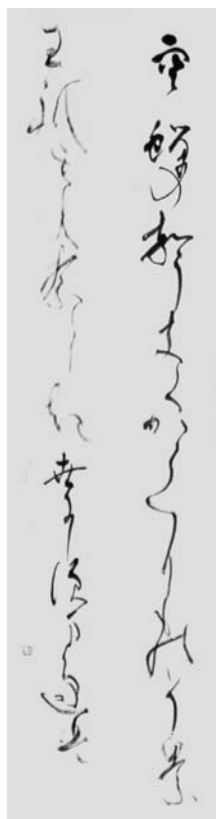
毎日賞



刻字部
鈴木香風



近代詩文書部 河瀬明雪



かな部Ⅱ類
塩澤美紅



漢字部Ⅱ類
川嶋里美



前衛書部
木暮千晶

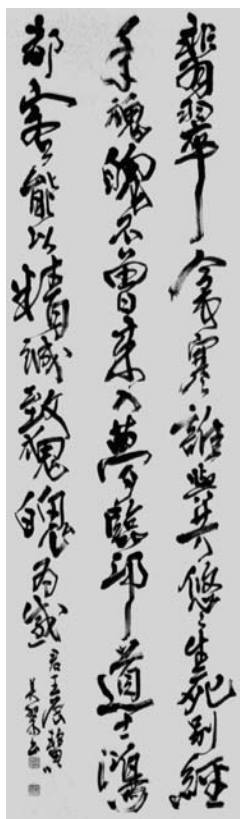
毎日賞



近代詩文書部 及川晴彦



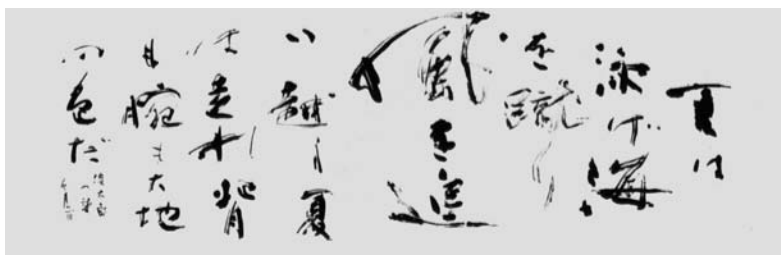
前衛書部 高原梨秀



漢字部I類 小澤美翠



大字部 小林桃華



近代詩文書部 千田春月

秀作賞受賞者

佳作賞受賞者

・漢字部 (I類)

石川溪華 西古春堂 藤井龍仙
藤原聖美

・漢字部 (II類)

西川藤象

・かな部 (I類)

稲村由字記 岡部照芳 清水喜代子
田村玲子

・かな部 (II類)

橋本紅霞 山田静枝

・近代詩文書部

石下珠光 江本興舟 小野寺車源
鈴木英晴 松村秀扇 吉田眞理
渡辺 浩

・大字書部

井戸三扇 大北翠宏 岡村恵窓
柄山明珠 吉永踏花

・刻字部

大沼樵峰 高橋芳琴

・前衛書部

一條紅蕭 小野寺三枝 桑島有子
後藤法明 鈴木幸風 寺澤悟子
名取雅子

・漢字部 (I類)

池内岳城 影山扇葉 西條祥葉
田口鈴水 橋 由紀 松本深泉

・漢字部 (II類)

安部須寿 垣坂肇華 加藤雅芳
金子美千 小林藤穂 樋口玉葉

・かな部 (I類)

青木江理子 九條純代 治田芳江
松本泰子 山形公子 大和由紀江

・かな部 (II類)

真壁顧緑 宮本香逢

・近代詩文書部

石井芳蘭 臼井眞理 大野清玉
尾田素紅 乙倉翠芳 吉川翠佳
木村蕉苑 国吉真雲 佐藤光耀
佐藤初香 佐藤星沙 佐藤陽春
嶋田麗雲 高橋 潤 見浪 隆
米倉馨香

・大字書部

菅沼窓園 谷口青龍 藤原小翠
細田清燕 前浜裕香 宮本月琴

・刻字部

赤羽蘭徑 佐藤花梢 高松香風
湯川皋雲

・前衛書部

浅野彩紅 石塚真奈美 梅山久子
大町菜円 角張芳蘭 片 幸子
亀井 健 木原尚子 木村澄子
栗原夏扇 中村雅臣 林 一宏
前島登代子 三木彩月

U 23 新鋭賞

・かな部 (I類)

北爪美沙希

・前衛書部

柏木蒼花

U 23 奨励賞

・漢字部 (II類)

相内菜摘

・近代詩文書部

雨宮直美 小野原紅華

・大字書部

臼井宏弥

・前衛書部

後藤 恭 藤崎彩花



乾杯／ 村野大仙名誉顧問



毎日賞受賞者あいさつ

漢字研究部

集字(王)聖教序(東晋・王羲之) ③

用紙 半紙普通判 左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。(掲載部分以外は不可)

特別研究部臨書課題

Ⅱ (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

《解説》 この碑を臨書するに当たっては、

前号で述べた通り、この碑が集字されたものであることを念頭において臨まなければならない。一字一字孤立した文字群を、そ

れぞれの個性(特徴)を殺さない程度にま

とめ上げる必要がある。行書らしい動き、

文字から文字へのつながりなど、筆脈の流

れを出すことを忘れてはならない。

智通無累。神測未形。超六塵

而迴出。隻千古而無對。凝心

内境。悲正法之陵遲。栖慮玄

門。慨深文之訛謬。思欲分條析

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

〇〇臨

(押印のみ可)

智通無累神測未形超六塵
而迴出隻千古而無對凝心
内境悲正法之陵遲栖慮玄
門慨深文之訛謬思欲分條析

特別研究部臨書課題

Ⅱ (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

〔解説〕 左掲の相模集は、前々月号、前月号の(源)重之の子の僧の集と同じ料紙だが詞書きがなく、歌一首二行から始まる。文字は僧の集よりやや大きく、

大らかに率意的に書かれ、そのためコミカルな造形も生まれている。僧の集が静的バランスで成り立つに對して、相模集は動的バランスの文字が多用されている。

針切の連綿は非常に長く、時には10、12字にも及ぶ。筆者を藤原行成と伝えるが確証はなく、11世紀末から12世紀初頭とされる。

Ⅱ 注Ⅱ かな研究部競書作品は、上の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可) 用紙

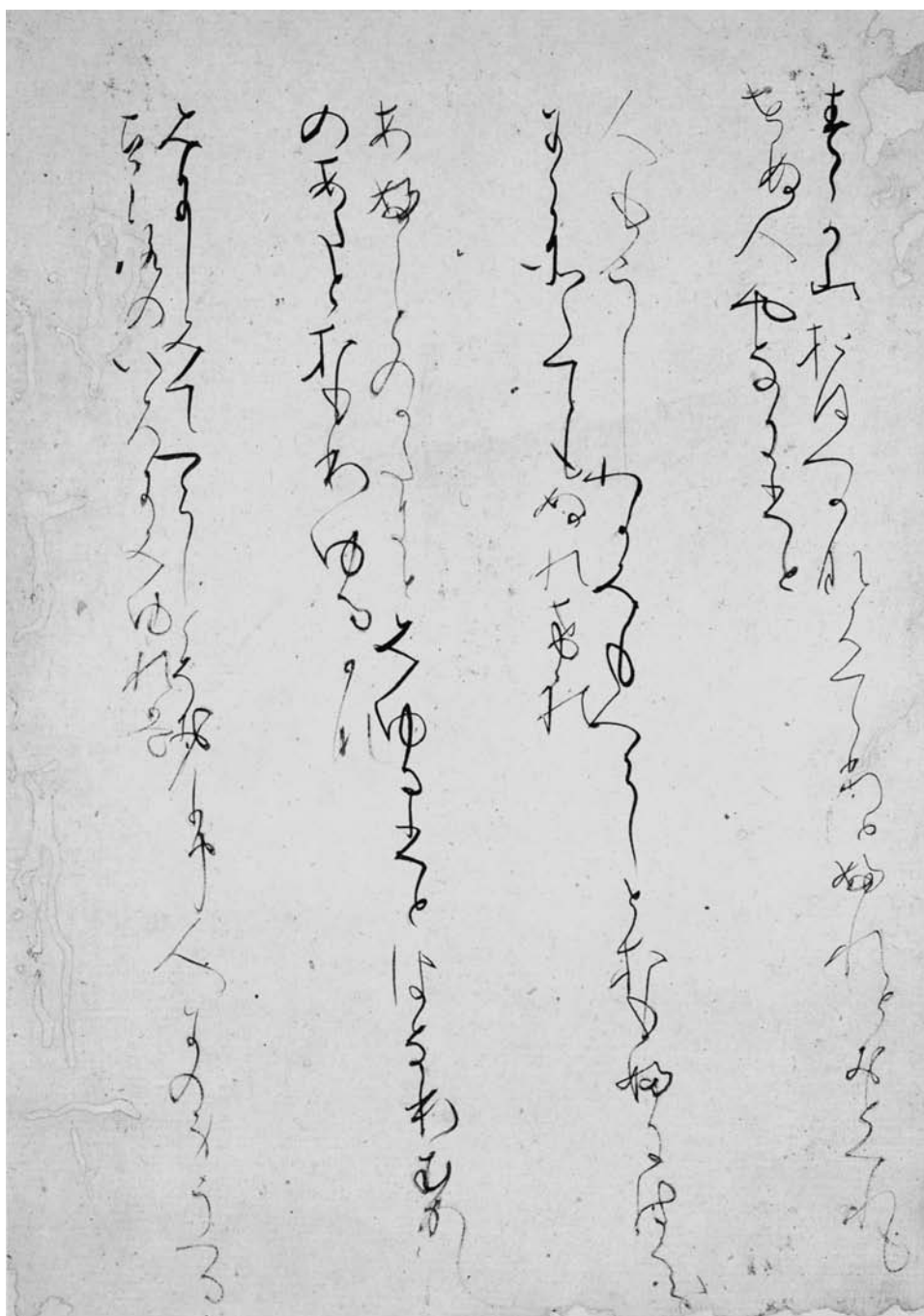
・半紙普通判(料紙可)

〈たて長に使用〉

※別紙を裁断して貼付も可。

・半懷紙は、半紙サイズに切つて使用のこと。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨 (押印のみ可)



〈よみ〉

すゝか山おぼつかなくてほどふれ

どおとづれも

せぬ人やなにびと

人もうしわがみもつらしとおもふ

にはうらく

にこそ、でもぬれけれ

あふことのかたきとみゆるひとは

なほむかし

のあだとおもほゆるかな

みにしみてつらしとぞおもふ人に

のみうつる

こゝろのいろにみゆれば

漢字規定 初段以上 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

大野祥雲 選書

秋菊有佳色 よみ（秋の菊に佳色あり）

書体Ⅱ自由



習い方解説 (六)

大野祥雲

秋菊有佳色 (陶淵明)

(秋の菊は色美しく、まことにみごとに咲いている。)

「秋」やや大きめの線でスタート。その後は鋒先を使って紙に切り込む。

「菊」秋の調子からさらに一歩進めて、弾力を生かしていく。ポイントは筆を立てること。

「有」一転して大きめの弾んだ線で一気に運筆。左右への動きより、下方へ生き生きと動く。字形は長方形となる。

「佳」簡潔な文字とし、偏と旁の間に広い空間をとる。

「色」佳から色への連綿は、色の上部と考え、かなり長くした。最終画ではこの作全体を抱く線にしたつもりだが…。

漢字規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

小竹石雲選書

積土成山

よみ (積土山を成す)

書体Ⅱ楷書

積土成山

石雲書

習い方解説 (六)

小竹石雲

積土成山 (荀子)
(積土山を成す)

楷書の最高峰と言われている褚遂良の雁塔聖教序の書風で書いてみました。

雁塔聖教序は、歐陽詢や虞世南の楷書が、比較的静けさをたたえたものであったのに反し、運筆が飛動しています。欧虞の書は形から入ることができますが、この作は動きとカリズムが理解できないと形だけまねても似てきません。逆に引っかけた線は、その反動を利用して線がうねり、波打っています。だからこの波は逆筆の必然の結果として出るべきもので、その場所へ行ってから、急にゆらせても様になりません。細い響きのある線が引けるよう練習してみましょう。

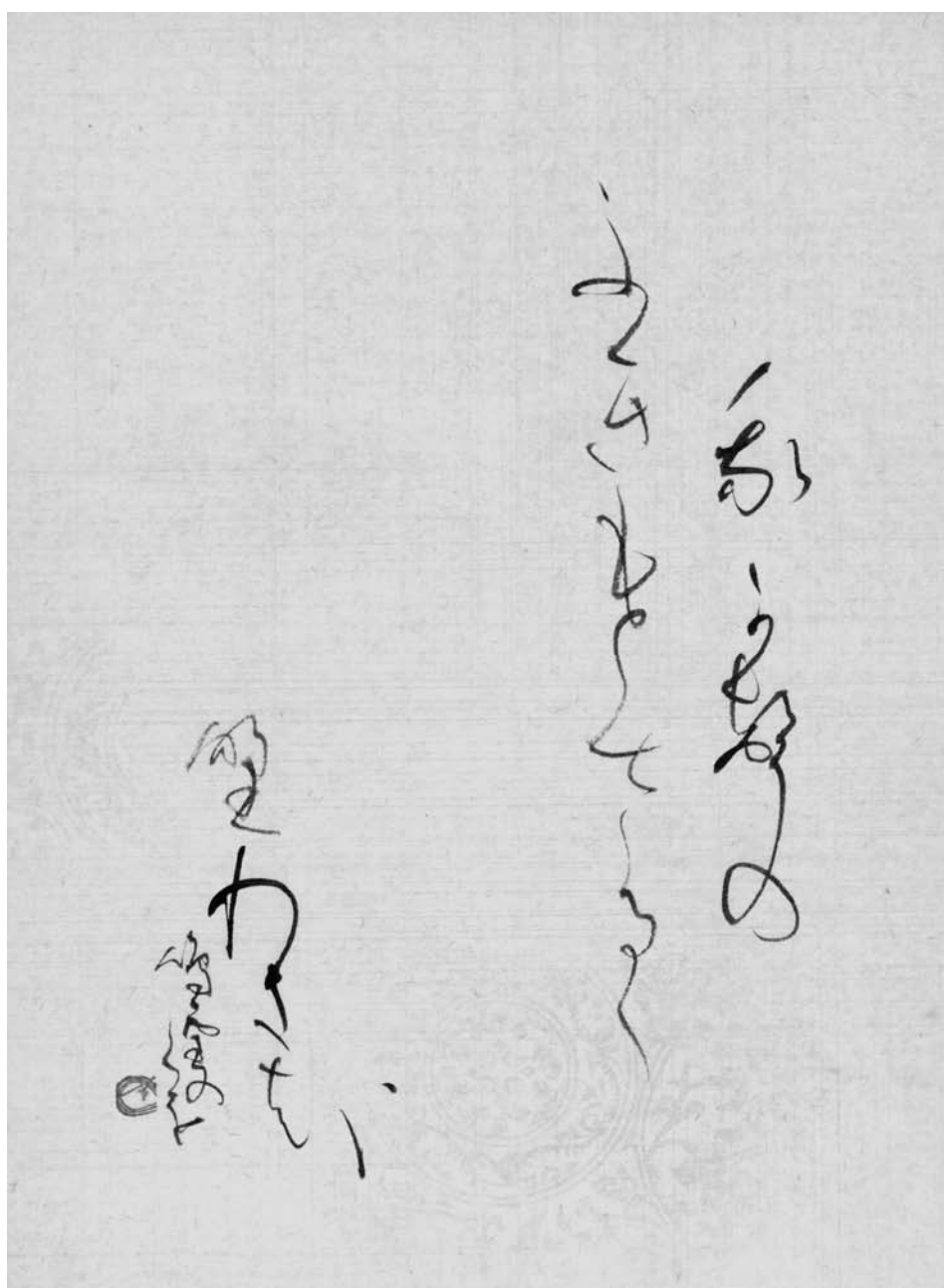
かな規定 初段以上 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

下谷 洋子 選書

習い方解説 (六)

下谷 洋子

我が声の吹き戻さるる野わき
かな
(鳴雪)



よみ方 我が(可)声のふきもどさるる(る)野わき(支)かな(哉) 鳴雪のくを

創作

学書法の一つとして古典や古筆を習います。古筆を臨書する方は多いでしょうが、どの程度その古筆を見ているでしょうか？深い見方が出来ない、創作に移ったとき文字の組み合わせや連綿・転折の方法などに戸惑い、安易に手本に頼りがちです。目習いという言葉があります、とにかく好きな古筆をじっくり眺めましょう。眺めてもすぐつかめるものではありませんが、特色に気がつくことを少しずつ積み重ねていくしかないのです。今回は、大麥書きやすい句です、是非習った古筆を参考に、字形・字組み・連綿などを取り入れた上で品格のあるオリジナルな作品を創って下さい。

かなの表現方法は無尽蔵です。自己流に陥らないためにも、古筆を見る・・・心掛けてほしいと思います。

かな規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野 切第三種
(掲載写真縮小93%)

よみ方 み(美)はす(春)てつ(徒)こころをだ(多)にもはふら

さじつひに(尔)はいか(可)くな(那)るとするべく(久)

習い方解説 (三)

平川 峰子

かな条幅規定 【十月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

平川 峰子 選書

草市や人まばらなる宵の雨

(子規)

よみ方 草市や人ま(未)ば(者)らな(奈)る(類)宵の雨 子規句

創作

二行書きにするために書き出しを中心よりやや右に寄せ、「子規句」と落款を入れるために「宵の雨」を小さ目に配慮しました。
俳句を作品にする場合、変体がない連綿は最小限にしますが、あえてまん中に入れてみました。字粒の大きさ、墨量の変化、字間の取り方、こういった要素がうまく調和するとよい作品になります。

※たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【十月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

移舟泊煙渚 日暮客愁新
野曠天低樹 江清月近人
（舟を移して煙渚に泊す 日暮れて客愁新たに 野曠くして天樹に低れ 江清くして月人に近し）

書体Ⅱ自由

移舟泊煙渚 日暮客愁新
野曠天低樹 江清月近人
（舟を移して煙渚に泊す 日暮れて客愁新たに 野曠くして天樹に低れ 江清くして月人に近し）

漢字条幅規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

道在尔而求諸遠事
在易而求諸難

萬城書

道在爾而求諸遠 事在易而求諸難

（道は尔きに在り而るに諸れを遠きに求む 事は易きに在り而るに諸れを難きに求む）

孟子

書体Ⅱ自由

習い方解説 (六)

名越蒼竹

担当の最終回は一番作品化しやすいと言われる行草体で試みました。実際には、もっと大胆に潤渾濃淡の変化をつけるのがよいでしょう。行の左右の響き合いによって章法が生きてくるため、特に二行目からは前行の書きぶりに対応させて、字間の取り方や文字幅に気をつけながら書き進めていってください。今後の精進を祈ります。

習い方解説 (六)

種谷萬城

人の行うべき道は普段の生活の中にあるのに、あえて深遠なところに求めようとする。物事の本質はごく当たり前の事柄の中にあるのに、かえって難しく考えようとする。孟子の語です。今月は顔真卿の争座位稿を倣書しました。抑揚のある筆法で、重厚感に溢れ、魅力的な行書です。

ペン字規定【十月十五日締めきり】

上柳佳規選書

牧場の柵にもたれて、
子供は野薔薇を喰んでいる。
あかまんまの紐。
すすきの穂。
草野心平「牧場の秋」より
佳規かく

用紙Ⅱはがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体Ⅱ自由

習い方解説 (六)

上柳佳規

初秋です。

草野心平の「牧場の秋」三・四・四・四行詩の最初の四行です。

スケッチ風な詩に流れているのは、秋の透明な空気です。雲も花も虫も、人も、すべてが透明な風景を形づくっている高原の秋を謳っています。

高原や高い山の上で仰向けになって見る空は、深く深く吸い込まれそうな青さです。

この空の下、もう半年になりますが、東日本大震災、原発の放射能もれに始まり、初夏からの猛暑、更にゲリラ的豪雨は七月末に新潟・福島豪雨災と異常つづきです。

稔りの秋を迎えますが、被災地の豊穡をもたらす土地や、村や、街や、あらゆるものの一日も早い復興を願わずにはいられません。

「あかまんま」は「イヌタデ」の別称、ままごと遊びに使われた。何事も積み重ねが肝要です。

○新かなづかいによりました。

※落款を必ず入れる。

(自分の名前を入れること)

木一作品 各部総評

NO. 603

漢字部 師範 新 爽風

重厚なねばり強い線質で、存在感あり。顔真卿祭姪稿の風を得て力感溢れる作。落款やや雑か。

◎漢字部総評 上級課題やや難しかったか。まとまりに欠ける作多し。基礎的な造形力を古典臨書等で身につけてほしい。(大雲評)



かな条幅部 二段 滝上 初代

一字毎の造形や連綿をしっかりと把握しながら運筆する姿が窺え好ましい。この基本大切に精進を。◎かな条幅部総評 何でも過ぎるのは品を欠きます。太すぎ・大きすぎ・墨量が多すぎなど。流麗と速書きも質が違います。(洋子評)

前衛書部 特選 奥野 佳泉

濃墨による鋭い線質・美しい余白が見事に調和した素晴らしい作である。印泥の使用法に一考を。

◎前衛書部総評 私最後の批評なので一言。前衛書は線質・墨色・構成・気力と思う。(洞仙評)



漢字条幅部 師範 蔵村 登美

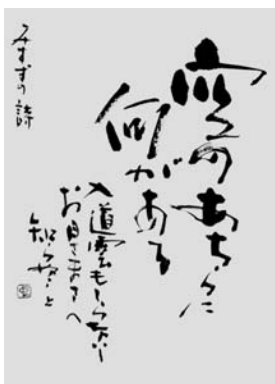
柔毫を用いて、穏やかに運筆し繊細で温雅な風格の行書。余白も美しく、物静かで格調の高い書。



現代詩文書部 特選 中野 翠秋

手堅い作品構成と角張った字形が独特の雰囲気を出し、作品全体も明るく引き締まっている。

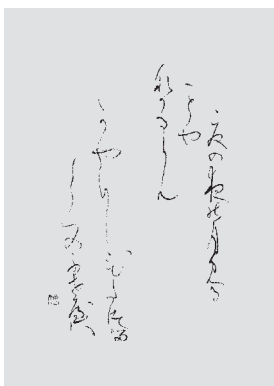
◎現代詩文書部総評 言葉を書く以上は詩意又は一つの目標を持って書いてほしい。(素雪評)



◎漢字条幅部総評 漢詩は中国古典文学です。本来は、繁体字で書くべきもの。日本の常用漢字との混用は不相応です。(萬城評)

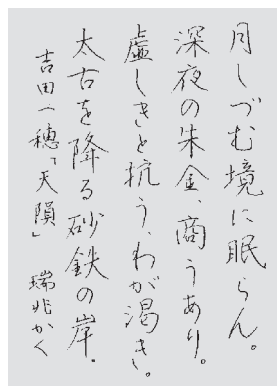
かな部 師範 高木 蒼信

寸松庵色紙の一枚を見るような密度の濃い線で丁寧に表現されていて見事。印位置、捺印法一考を。◎かな部総評 手本があれば書ける力を既に習得しているので、創作への努力を望みます。一部、墨量不足の作あり残念。(明子評)



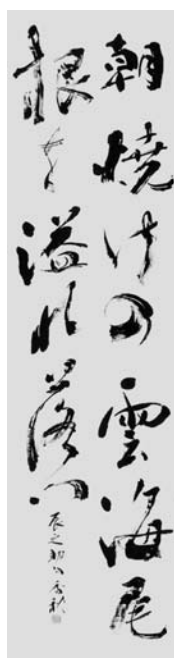
ペン字部 師範 須田 瑞兆

他の作品と比べて何とも余裕を感じさせる作品。悠々と空を飛ぶ心境が見え、更なる精進を期待。◎ペン字部総評 漢字はかなよりも少し大きめに書くように。流れの美しい作品を目指して鍛練してください。(鄭街評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)



172×45cm

松永香秋書

- ◆坦々と書いて黒と白のバランスが美しい。句意を少し盛り込みたいと思うのは私見でしょうか。(翠風評)
- ◆自然な二行書だが、意図的な構成が多い中で却って詩文書の本領を見る。かなが少々軽いのが残念。(洋子評)
- ◆ゆったりとのびやかな気分の作。適度な渴筆が効果的。筆先のからみがもう少し出れば味も増すか。(大雲評)
- ◆墨つぎの難しさをつくづく感じさせてくれる。最後の「つ」が少々筆の動きが重いと感じる。(倫子評)

現代詩文書

(大雲)

松永香秋

「石橋辰之助句」

漢字 (千葉)

松村秀扇



「白雲」

松村秀扇書

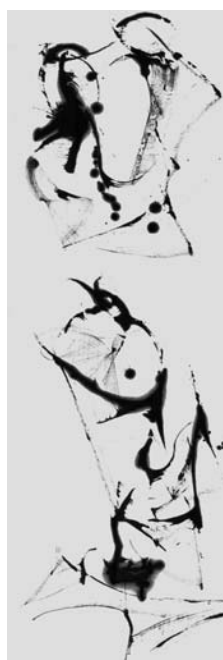
146×69cm

- ◆大きな呼吸の中で筆を働かせ全体の動きに活力を出した感。落款の位置に少し疑問が、下の空間では。(倫子評)
- ◆淡墨大字作品で甘くならず、潤いのあるバランス良い豊かな一作。「満」の造型には工夫の余地あり。(翠風評)
- ◆雄壮な作品だが淡墨にしたため、より広がりのある妙趣を生む。渴筆の処理と落款位置に一工夫を。(洋子評)
- ◆大らかで広がりある作。書き出しの潤筆と後半の渴筆が魅力的。やや曲線のくねりが気になる。(大雲評)

前衛書

(蓮紅)

大友紅蓉



172×60cm

大友紅蓉書

- ◆造像あたりの鍛錬からこういう作品が生まれるのでしょうか。(洋子評)
- ◆心の底から体全体で絞り上げた魂の作。(洋子評)
- ◆鋭いリズムで空間を切り取っていく動きが生きている。やや全体に騒がしさを感ずる。省略を一考。(大雲評)
- ◆筆の特徴をうまく取り入れ構成の面白さが表現されている。動きが大きく墨の色が紙の白さにマッチ。(倫子評)
- ◆モダンで明るい印象を受けました。一本の線、一つの墨滴を加える前の緊張感が想像出来ます。(翠風評)

漢字研究部
(集字(王)聖教序)

選評 竹田尚堂

今月のホープ作品



小島ふみ子

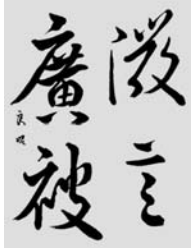
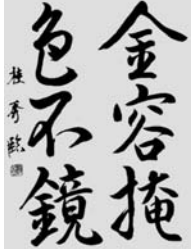
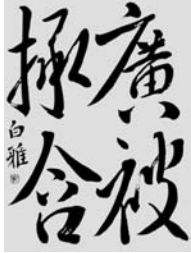
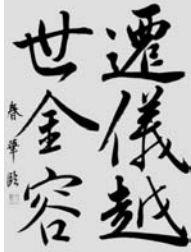
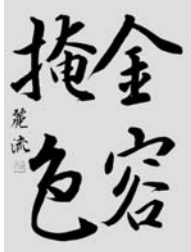
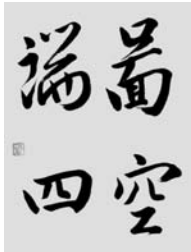
◎漢字研究部総評

学書者必修の古典故、最上位の方々はその

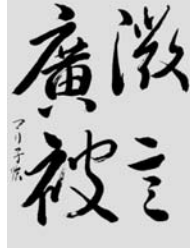
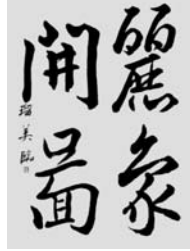
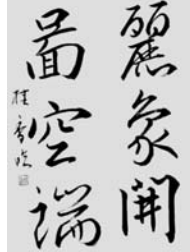
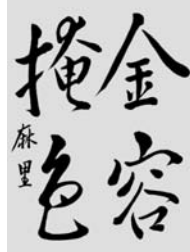
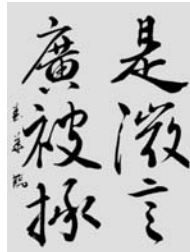
用筆の抑揚と俯仰、運筆の緩急によって生じる質の高い書線で、羲之の温雅で気品の高い風韻を見事に捉え表現されています。章法の巧みさも相俟って際立った余白美を生み出しています。形意共具わった佳臨に敬意。

漢字研究部 特選 小島ふみ子

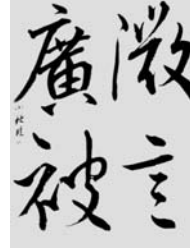
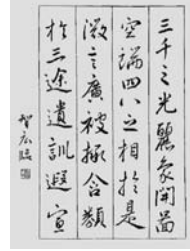
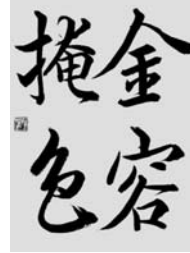
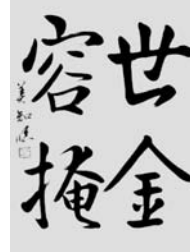
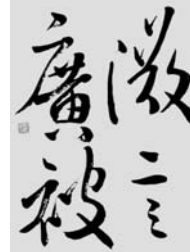
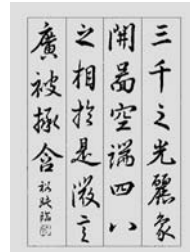
それぞれの捉え方で、納得させられるものでした。一方、法帖の観方の甘さを指摘せざるを得ない作が多数ありました。丁寧な観察が第一歩です。観ているつもりが案外観ていないものです。観なければ観えません。観えなければ書けません。古典を自分の表現領域に引込むのではなく、古典に頭を垂れて教えを請うという真摯な姿勢こそ肝要です。自戒を込めて。「象」特に誤字多く、字書の活用を。



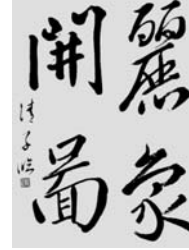
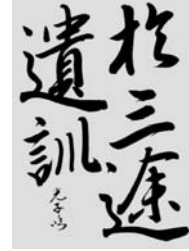
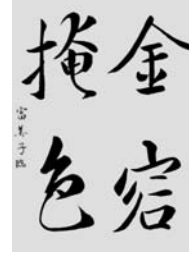
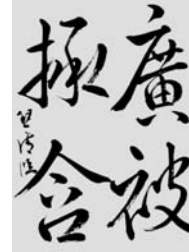
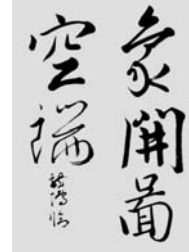
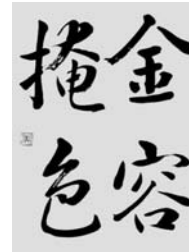
麗華 春子
白雅 昭
桂秀
良昭



麗華 春子
桂香
茂夫
瑠璃 子



麗華 春子
桂香
茂夫
瑠璃 子



麗華 春子
桂香
茂夫
瑠璃 子

